

第4回地球環境専門部会・地下圏微生物専門部会議事録

日時：10月13日（水）12時～18時

場所：長崎大学総合研究棟

出席者：

地球環境専門部会：多田隆治（東大）・伊藤孝（茨城大）・保柳康一（信州大）・長谷川卓（金沢大）・林田明（同志社大）・谷口真人（総合地球研）・大河内直彦（JAMSTEC）

地下圏微生物専門部会：北里洋（JAMSTEC）・山本啓之（JAMSTEC）・丸山明彦（産総研）・奈良岡浩（岡山大）・鈴木聡（愛媛大）・鈴木徳行（北海道大）科学立案評価パネル委員：小玉一人（高知大）・沢田健（北海道大）・伊藤慎（千葉大）

J-DESC 執行部リエゾン：加藤憲二（静岡大）

事務局：西川徹（AESTO）・田口朋子（AESTO）

報告事項

1) SSEPsの報告（林田委員）

5月にグラナダで行われた前回のSSEPsについての報告があった。当SSEPsに提出されたプロポーザルのうちSPCに8件送ることが決まった。その他、ワーキンググループにおける議論の内容について紹介があった。これに関して、本部会で議論された内容がSSEPsあるいはSPCに確実に上げられる必要性が多田委員長から指摘された。またCo-chairの決め方について議論があった。

2) SPC報告（加藤SPC委員）

配布資料あり。SPCに送られてきたプロポーザルのうち、どこまでOPCOMに送るかについてかなり議論があった、と報告あり。SPCでランキングされたがOPCOMに行かなかったプロポーザルをどうするかについては決まっていない。またOPCOMに日本から強力な（船の運航に関してよく知っている）委員を送り込む必要性が指摘された。2007年にISSM(International Symposium on Subsurface Microbiology)を開きたいが、そのときには日本からの微生物学関連のプロポーザルがSPCに上がっていて欲しいと考えている。

3) 航海報告（北里地下圏微生物部会長）

ACEXに関して、高橋孝三氏が地質学会で発表した内容の紹介があった。ACEXに関しては、先週のScienceにも紹介されている（Natureにも紹介されたが、そちらの内容は間違い多々あり）。これに関して、加藤SPC委員から来年から合同学会で、IODPのセッションが立ち上がり、Co-chiefが航海報告をする場ができることが紹介された。

4) その他

・乗船研究者がIODP 1年目にしてすでに定員割れになっている状況であることがAESTOの西川氏から説明があった。これを解決するために、学生に積極的にIODPに参加するシステム作りの必要性が強調された。また多田E部会長から学部生も乗せても良いのではないかと、さらにIODPを用いた洋上大学や、未経験者特別枠を設けてもよいのではないかと提案があった。乗船者に対するJ-DESCの経済的サポートをもっと充実させることと、配分方法をクリアにする必要性が指摘された。また、下船後の研究費の支援の必要性が指摘された。関連した話題として、IODPの宣伝のために高知大学海洋コアセンターを積極的に利用してほしいと小玉委員から提案があった。また鈴木聡委員から高校生を相手に啓蒙活動を積極的に行うべきだと提案があった。これに関しては、来年6月に横浜で「ちきゅう」を一般公開する予定。鈴木徳行委員から、より多くの大学の研究者を委員会の委員に招くことによって、IODPコミュニティの裾野を広げるよう努力すべきであると提案があった。ホームページを充実する必要があると伊藤慎委員から提案があった。

・保柳委員からSSPの報告があった。プロポーザルを改訂する際は、データや図表を新しく付け直すよう指示があった旨が紹介された。

審議事項

1) SSEPs委員, SPC委員の交代について

小玉委員の後継に伊藤慎氏(千葉大)、次回のSSEPs欠席の大河内委員の代理に沢田健氏(北海道大学)、SPCでは巽・伊藤委員の後継に北里 洋(JAMSTEC)・野村律夫両氏(島根大学)がそれぞれ決定した。

2) 次回SSEPsへの対応について

SPCにまで行ってOPCOMに行かなかったプロポーザルをどうするか? 日本から発信されるプロポーザルに関して、音波探査記録を取るためのサポート体制を確立して欲しい旨、多田地球環境専門部会から要請があった。現時点では、JAMSTECの船のシフトタイムを得る際に、プロポーザル提案者をサポートする明確な体制がない。当部会からJDESCにサポート体制を強めるよう要請する。また次回のSSEPsで、3年間activateされていないプロポーザルを棄却するルールが適用されてもよいことを確認した。

3) 関連分野へのIODPの周知、プロポーザル・乗船研究者の掘り起こしと活性化について、特にプロポーザル提案数の増加について上述の通り

4) IODP活動予算について

AESTO西川氏から予算獲得に関する活動概要の説明があった。乗船研究者の旅費は、今年度はJAMSTECが手当てをする。来年度以降は未定だが、JAMSTEC、地質学会、日本学術会議、文部科学省等の異なったルートを通じて予算獲得の努力を行っている旨報告があった。